

現庁舎の耐震診断結果

・耐震診断の結果について

平成20年に行った新耐震基準による耐震診断の結果は右図のとおりです。

5段階で耐震性能を評価したところ、議場棟2階と西別館5階については安全性に問題がなかったものの、その他の箇所については震度6強の地震で倒壊又は崩壊する危険性があることがわかりました。

*平成7年建設の東別館は、新耐震基準(昭和56年～)適用の為、耐震診断の対象外

	階層	耐震性		階層	耐震性
本庁	3F	D	西別館	5F	B
	2F	E		4F	D
	1F	E		3F	D
議会棟	2F	C		2F	D
	1F	D		1F	D
南別館	2F	D			
	1F	D			

震度6強の地震を想定

- A：構造体の補修をすることなく使用可能。十分な機能確保が図られている。
- B：構造体の補修をすることなく使用可能。概ね機能確保が図られている。
- C：構造体に部分的損傷は生じるが、補修により再使用が可能。
- D：倒壊又は崩壊する危険性があり、耐震補強が必要。
- E：倒壊又は崩壊する危険性が高く、早急に補修が必要。

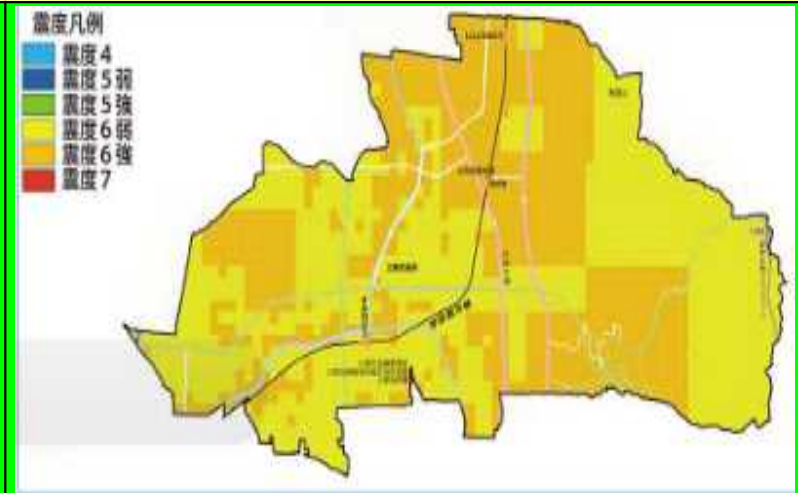
大東市における地震震度

危機管理室「出前講座」資料より抜粋

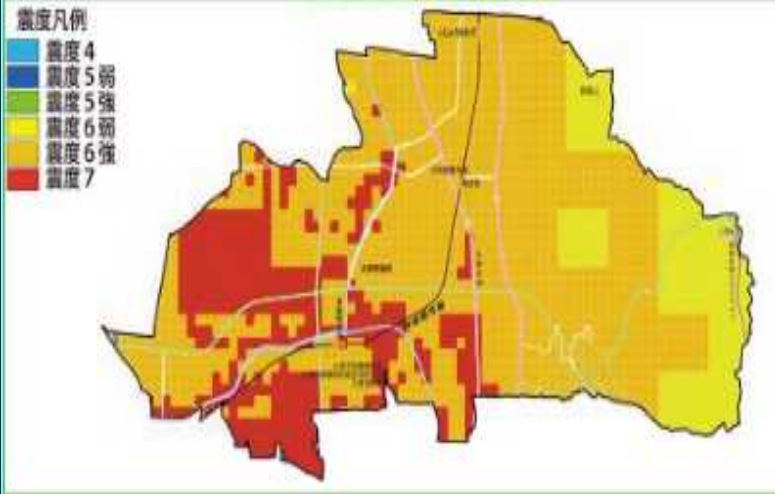
南海トラフ地震



上町断層帯地震



生駒断層帯地震



震度表

6弱	6強	7
<ul style="list-style-type: none"> ○立っていることが困難 ○耐震性の低い木造の建物は、傾いたり、<u>倒れるものがある。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○はわないと動けない。 ○木造の建物が傾くものや<u>倒れるものが増える。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>耐震性のある木造住宅も傾くこともある。</u> ○<u>鉄筋コンクリートの建物が倒れるものが増える。</u>

各地震の被害想定

危機管理室「出前講座」資料より抜粋

区 分		生駒断層帯地震	上町断層帯地震	南海トラフ大地震
発生率		30年以内に約0.1%	30年以内に約3%	30年以内に約70～80%
予想震度		6強程度	6強程度	6弱程度
津波被害		津波被害を受けない	津波被害を受けない	津波被害を受けない
人	死者	445人	23人	21
	負傷者	1,264人	1,832人	483
建物	全壊	13,566棟	3,573棟	1,762
	半壊	8,512棟	5,366棟	5,695
ライフライン	水道	10.9万人	6万人	※100%
	電力	47,794軒	20,879軒	※49%
	ガス	約45,000戸	約45,000戸	—
	電話	18,306加入者	2,441加入者	※100% (固定電話)

近年、大東市においても被害が発生した災害と教訓

危機管理室「出前講座」資料より抜粋

大阪北部地震

- 発生日：平成30年6月18日
- 震度：茨木市(6弱)、**大東市(5弱)**



都市機能の麻痺

- 交通機能の麻痺(車内閉じ込め、移動等)
- ガス、水道等の損傷により生活に制限受
- ブロック塀、本棚の下敷等により死者発生

通勤者への対応

備蓄の推進

危険場所の把握

平成30年7月豪雨

- 発生日：平成30年6月28日～7月8日
- 総雨量：1,365mm(徳島県那珂町)



避難の遅れ(特に避難行動要支援者)

最初に避難するきっかけになったのは何か



- 氾濫しない
- 床下くらい
- 雨が止む

正常性が仍(自分は大丈夫)

台風21号

- 発生日：平成30年9月4日～5日
- 最大風速：58.1m/s(関空)



暴風への警戒(施設の管理)

- 屋根の倒壊、瓦の舞い上げ、飛散等

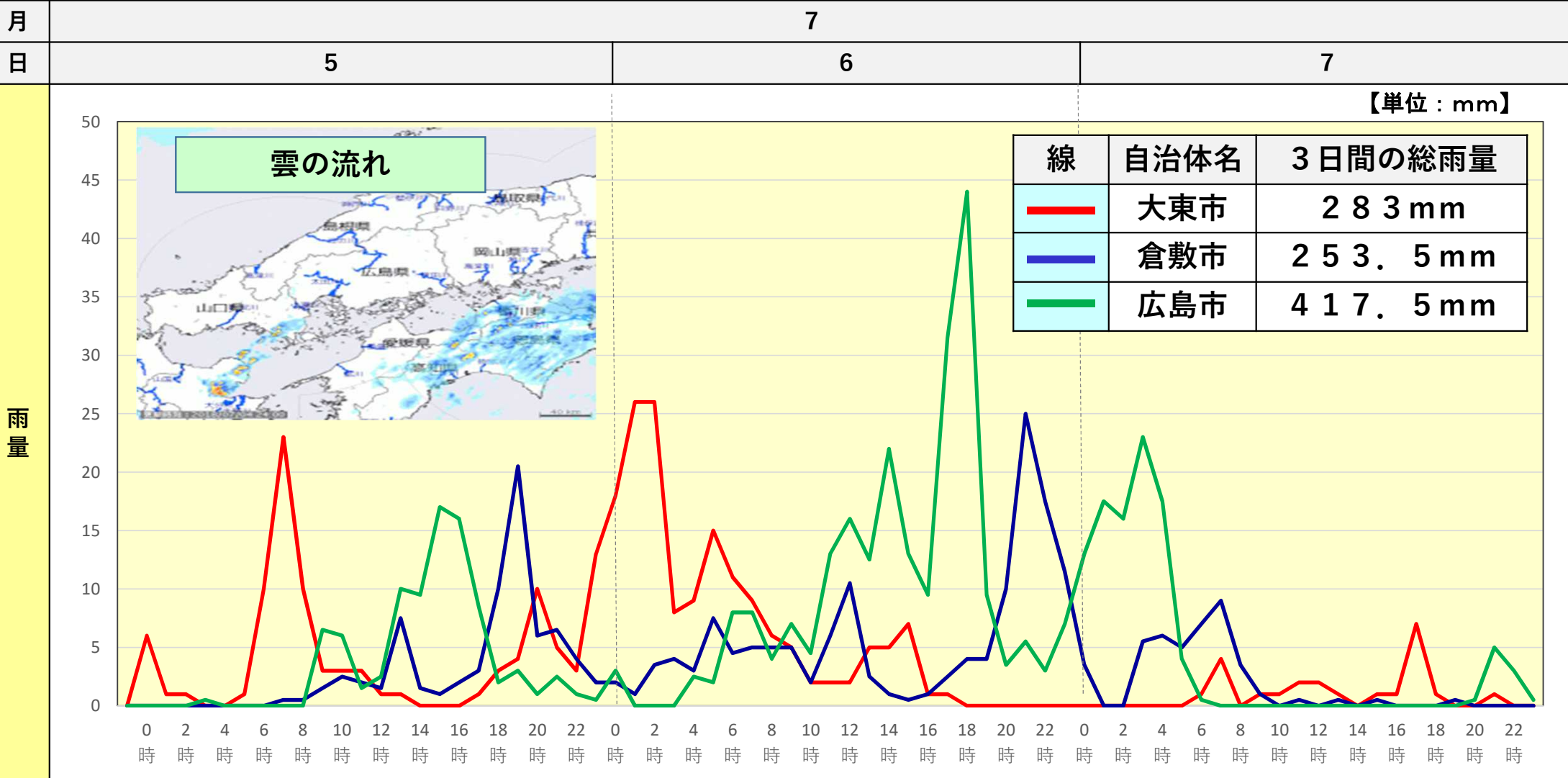
施設管理及び飛散物の除去

- 電線への飛散物による停電

停電への備え

平成30年7月豪雨における3市の比較

危機管理室「出前講座」資料より抜粋



雨量

大東水害

危機管理室「出前講座」資料より抜粋

【発生日】

昭和47年7月12日

【総雨量】

約20~30mm/1h 約300mm/4日

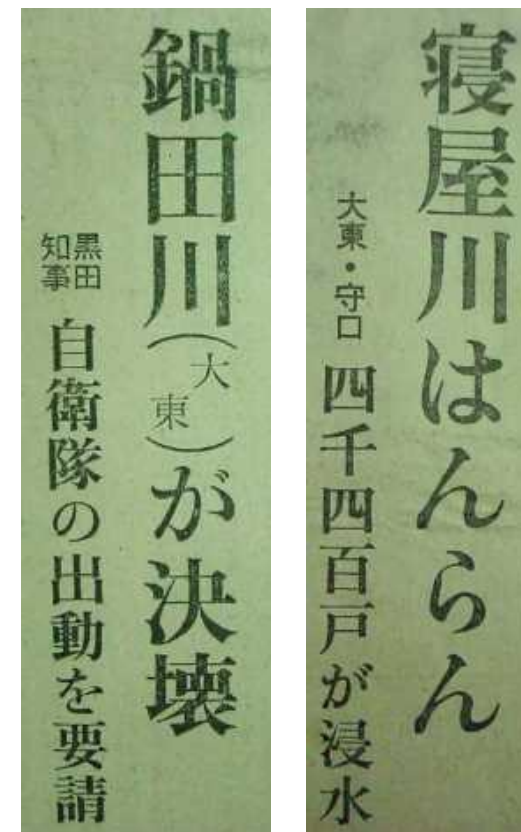
* 大東市の年間平均雨量 約1300mm



【決壊等】

- 鍋田川左岸：決壊
- 寝屋川：氾濫

区分		被害
浸水	床上	2,194戸
	床下	5,000戸
避難者		延べ6,217人



* 平成28年 岩手県で台風第10号による雨量 (80mm/1h、230mm/24h)

* 平成26年 広島県で前線の影響による雨量 (100mm/1h、257mm/24h)

大東市における洪水リスク

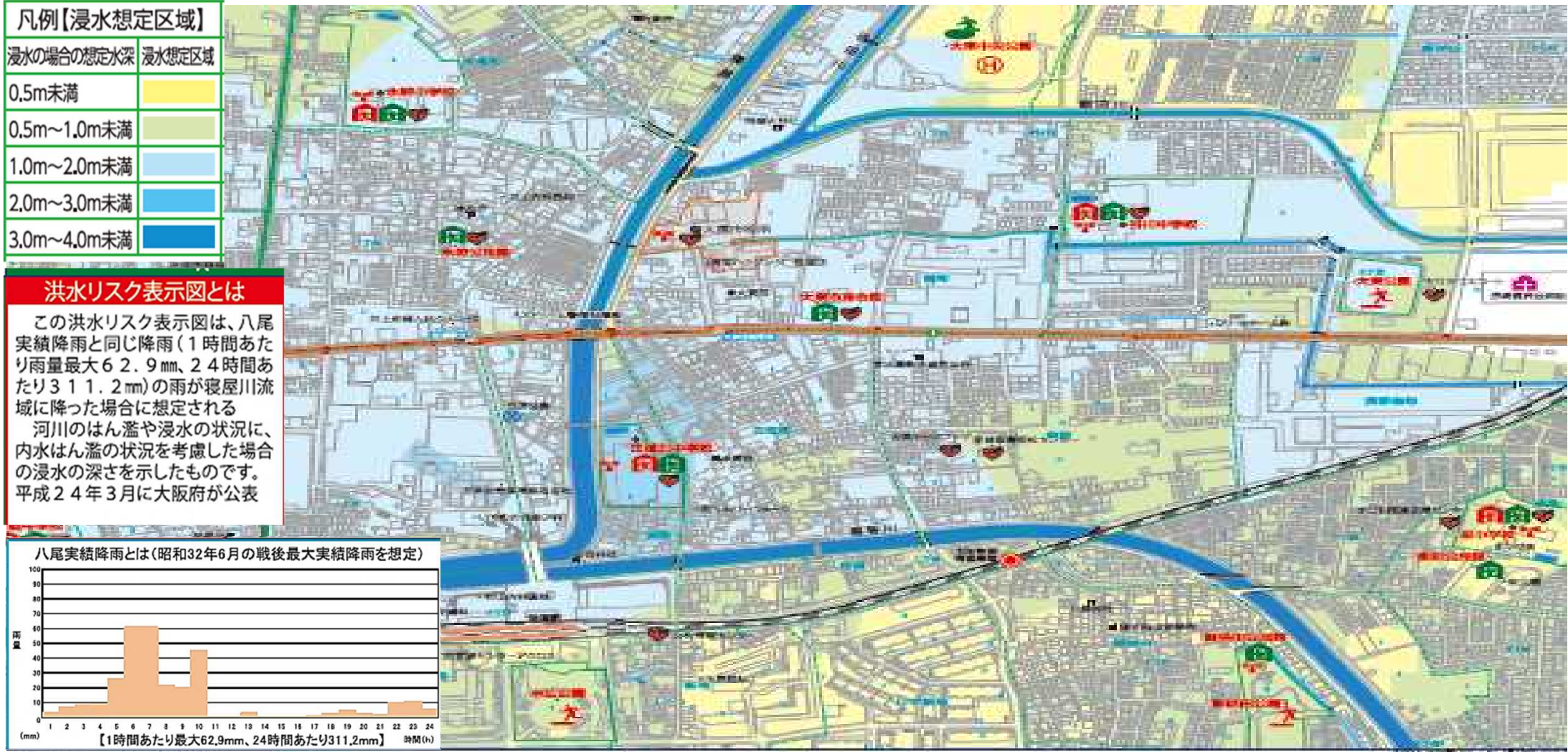
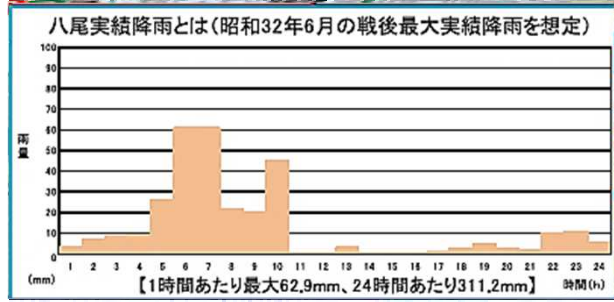
危機管理室「出前講座」資料より抜粋

凡例【浸水想定区域】

浸水の場合の想定水深	浸水想定区域
0.5m未満	黄色
0.5m~1.0m未満	黄緑色
1.0m~2.0m未満	青色
2.0m~3.0m未満	水色
3.0m~4.0m未満	濃青色

洪水リスク表示図とは

この洪水リスク表示図は、八尾実績降雨と同じ降雨（1時間あたり雨量最大62.9mm、24時間あたり311.2mm）の雨が寝屋川流域に降った場合に想定される
 河川のはん濫や浸水の状況に、内水はん濫の状況を考慮した場合の浸水の深さを示したものです。
 平成24年3月に大阪府が公表



大東市の土砂災害警戒区域(特に注意する地域)

危機管理室「出前講座」資料より抜粋

土砂災害
特別警戒区域

土砂災害
警戒区域

●避難時は黄・赤色の
エリアから至急、避難
してください。

●周辺も土砂災害が発生す
ると孤立する可能性が
あります。

